



入船だより

横浜市立入船小学校
校長 中村 公俊
学校だより 12月号
令和5年11月30日

「同じものを観ても」

学校長 中村 公俊

11月20日に全校児童が劇団ひとみ座による人形劇「9月0日大冒険」を観劇しました。

これは、文化庁が「子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保し、豊かな創造力・思考力などを養うとともに優れた文化の創造につなげる」ことを目的として行っている事業です。

人形劇と聞いて、高学年にとっては少し幼稚に感じる子もいるのではないかと、また、前半後半合わせて90分という長さ、低学年の子たちは飽きてしまう子も出てくるのでは、と初めは少し心配していましたが、しかし、その心配は全く不要でした。劇が始まると、どの子も目の前で繰り広げられるそのパフォーマンスと内容に、すぐに引き込まれていきました。人形がアクションを起こすたびに、「わあっ。」や「すごい。」と歓声が聞こえ、恐竜などが出でくる迫力のあるシーンでは「でかっ。」「かっこいい。」など目を輝かせていました。前半が終了すると、「えっ、もう前半が終わっちゃったの。」という声が聞こえてくるほどでした。後半の初めには3年生が考えた恐竜も登場し、その完成度の高さとユニークさに会場も大盛り上がり、そのまま劇の終了まで子どもたちを一気に引き込んでいきました。

子どもたちの感想は実に豊かなものでした。

「恐竜がかっこよかった。」「迫力があって、すごかった。」「ぼくも白亜紀に行ってみよう。」「恐竜に関することや、「9月0日なんて、考えたこともなかった。」「友達と同じ夢？を一緒にしてみよう。」「内容に関する、さらに、「劇団の人たちの声の出し方がよかった。」「あんなに長いセリフをどうやって覚えたんだろう。」「火山や川の絵や、恐竜など一つ一つが本物みたいにできていた。」などの演じる

側や舞台の絵に関心を持つ子、教職員からは、「役者は見えているのに、話が始めると、まるで見えていないかのような演じ方はすごい。」「舞台装置の効果的な演出法や、使い方に感心した。」「笑いもたくさん取り入れ、飽きさせない工夫が随所に見られた。」「次からの授業のヒントになった。」などの感想が聞かれました。

一つの同じ劇を鑑賞しても、思うこと、感じることはそれぞれです。一人ひとり、個性や発達段階、興味の持ち方によって、様々な感想が生まれ、感想の交流が始まる。今回の人形劇は、子どもたちの感受性を刺激し、その素晴らしいさを再認識するとともに有意義なものとなりました。

